



Grand Piano / Upright Piano
Owner's Manual

Piano à queue / Piano droit Mode d'emploi
Piano de cola / Piano vertical Manual de instrucciones
Flügel / Klavier Benutzerhandbuch
Piano de cauda / Piano vertical Manual do Proprietário
Рояль / Пианино Руководство пользователя

三角钢琴 / 立式钢琴 使用说明书
平台鋼琴 / 直立式鋼琴 使用說明書
그랜드피아노 / 업라이트 피아노 사용설명서
グランドピアノ / アップライトピアノ 取扱説明書

English

Français

Español

Deutsch

Português

Русский

简体中文

繁體中文

한국어

日本語

グランドピアノ アップライトピアノ 取扱説明書

このたびは、ヤマハピアノをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
100 年以上の時間をかけて到達した、職人技の伝統と革新的技術の融合、
その結晶こそがヤマハピアノです。
長くお付き合いいただく大切な 1 台のために、本書をお読みください。
また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに保管してください。

■目次

1. 安全上のご注意	5
2. 使用上のご注意	8
3. 各部の名称.....	10
4. ご使用前の準備	12
5. 調律について	16
6. お手入れについて.....	17
7. 困ったな / 故障かな? と思ったら	18
8. 保証とアフターサービス	19

■付属品

- 取扱説明書（本冊子）
- ブックレット
 - 保証書
 - アフターサービスカード
- キーカバー
- 拭布
- 鍵（一部の機種のみ）

*トランスアコースティック™ ピアノ、サイレントピアノ™（消音）、ディスクラピア™（自動演奏）
には、ほかにも付属品があります。
別冊の取扱説明書にてご確認ください。

1.安全上のご注意

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	行為を指示する記号
	禁止を示す記号
	注意喚起を示す記号

「警告」「注意」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。

 警告	「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
 注意	「傷害を負う可能性が想定される」内容です。

警告

設置



必ず実行

平らで丈夫な床に設置する

段差のある床や強度不足の床に設置すると、不安定になったり転倒したりするおそれがあります。ピアノは大きさによって重量が違います。ご購入いただいた機種種の重量に応じて、設置場所にご配慮をお願いいたします。ピアノのおよその重量は下記のとおりです。

グランドピアノ	250kg ～ 500kg
アップライトピアノ	190kg ～ 280kg



必ず実行

アップライトピアノは背面を壁側に向けて設置する

アップライトピアノの重心は後ろ寄りにあります。地震などの際にピアノが転倒してけがをするおそれがあります。



必ず実行

すべてのキャスターについているストッパーを確実に締める

キャスターにストッパーがついている場合は、移動するとき以外はすべてのストッパーが確実に締められていることを必ずご確認ください。ストッパーがゆるんだ状態のままでは、ピアノが不意に動いて重大な事故につながるおそれがあります。

異常に気づいたら



禁止

故障状態を放置しない

ピアノや関連備品の故障状態を放置すると思わぬ事故が発生することがあります。鍵盤蓋の「ソフトランディング™ 機構」が劣化や故障していると勢いよく蓋が閉じ、手指をはさむことがあります。故障に気づいたら直ちに、お買い上げ店に点検・修理をご依頼ください。※ ソフトランディングはヤマハ株式会社の登録商標です。

取り扱い



禁止

地震のときには、ピアノに近寄らない

地震による強い揺れで、動いたり転倒したり、ピアノの全体または部品が破損・脱落してけがをするおそれがあります。



禁止

ピアノのまわりで遊ばない

ピアノに登ったり下で遊んだりしないでください。滑り落ちたり頭をぶついたりしてけがをするおそれがあります。また、ピアノの転倒によりけがをするおそれがあります。



禁止

ピアノに寄り掛かったり腰掛けたりしない

ピアノが転倒したり、不意に動いたりしてけがをするおそれがあります。また、鍵盤蓋の動きに不具合が生じる原因になります。



必ず実行

移動の際は専門家に相談する

ピアノは重量物です。移動の際に腰を痛めたり床を傷つけたりするおそれがあります。



禁止

お子様だけの移動は絶対に行わない

ピアノはかなりの重量がありますので、移動には危険が伴います。床面のわずかな凹凸にキャスターが引っかかり、ピアノが破損したり、転倒したりするおそれがあります。

アップライトピアノでは、屋根付近を後方に押したり、鍵盤を持ち上げるような力を加えたりしないでください。バランスをくずし、ピアノが転倒してけがをするおそれがあります。

屋根



必ず実行

屋根の開閉は操作手順に沿ってゆっくり静かに行う

屋根の開閉時に手指をはさんでけがをするおそれがあります。特にグランドピアノの屋根は重いので十分に注意してください。

操作手順は 12 ページをご覧ください。



必ず実行

グランドピアノの屋根の開閉は必ず大人が行う

グランドピアノの屋根は重いので、お子様が行った場合、屋根が落下してけがをするおそれがあります。



禁止

ピアノカバーをかぶせたまま屋根を開けない

ピアノカバーをかぶせたまま屋根を持ち上げると、手がすべり屋根が落下してけがをするおそれがあります。屋根を開けるときは必ずピアノカバーを外してください。



禁止

グランドピアノの屋根が開いているときは下に頭や体を入れない

屋根が落下した場合に頭や体をはさんでけがをするおそれがあります。



禁止

グランドピアノの屋根が開いているときは突上棒に触れない

突上棒が受皿から外れ、屋根が落下してけがをするおそれがあります。ほかの人が周囲にいる場合は、ほかの人が突上棒に触れないように注意してください。

椅子



必ず実行

椅子は水平で平らな床面で使用する

平らでない床面で使用すると椅子が不安定になり転倒して、自分または周りにいる人がけがをするおそれがあります。



禁止

椅子で遊んだり踏台にしたりしない

転倒したり壊れたりしてけがをするおそれがあります。



禁止

2人以上で腰掛けない

腰掛けたときの姿勢や椅子に無理が生じ、けがや事故の原因になります。



禁止

椅子のナットがゆるんだままで使わない

椅子が壊れて、けがをすることがあります。ときどき点検して、ゆるんでいる場合はナットを締め直して使用してください。



注意

背もたれがない椅子では小さなお子様の後方への転落に注意する

小さなお子様はバランスをくずし、椅子から転落することがあります。特に背もたれがない椅子では後方に転落し、大きなけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

取り扱い



必ず実行

部屋の換気を十分に行う

ピアノに使用している木製部材は、環境や人体への影響を配慮していますが、塗料や接着剤などの影響により、まれに異臭を感じたり、目がしみたりする場合があります。このような事態を避けるため、以下の点にご注意ください。

- 輸送時の品質維持を目的として気密性の高い梱包をしています。開梱設置後の数日間は、ピアノを設置した部屋の換気を徹底してください。
- 日常から十分に換気を行ってください。部屋が小さい場合は、特にご注意ください。
- 高温下で長時間部屋を閉め切っていた場合は、換気を行い、室温を下げてからご使用ください。



禁止

ピアノの上に物を置かない

物が落ちて壊れたり、けがをしたりするおそれがあります。



禁止

ピアノの中や下に手や足を入れない

内部の機構部品などで手指や足にけがをするおそれがあります。



禁止

点検の際、ピアノから外した部品類に触れない

点検の際にピアノ調律技術者が外した部品類やピアノの内部機構に触れるとけがをするおそれがあります。

譜面台



必ず実行

グランドピアノの譜面台の取扱いは操作手順に沿ってゆっくりと行う

譜面台の手前側で手指をはさんでけがをするおそれがあります。

操作手順は 13、14 ページをご覧ください。



必ず実行

アップライトピアノ(一部の機種)のスライド式譜面板・トップサポートの開閉は、操作手順に沿ってゆっくりと行う

スライド式譜面板を開閉する際、両側と下側は指をはさんでけがをするおそれがあります。また、トップサポート（屋根）を開閉する際、指をはさんでけがをするおそれがあります。

操作手順は 14、15 ページをご覧ください。

鍵盤蓋



必ず実行

鍵盤蓋の開閉は両手で静かに行う

鍵盤蓋を開閉する際、手指をはさんでけがをするおそれがあります。自分または周りにいるほかの人の手指をはさまないように注意してください。



禁止

鍵盤蓋を閉めるときは無理な力を加えない

鍵盤蓋は「ソフトランディング™ 機構」により、手を放してもゆっくりと閉まるようになっています。

閉めるときに鍵盤蓋に無理な力を加えると「ソフトランディング™ 機構」が破損し、手指をはさんでけがをするおそれがあります。

「ソフトランディング™ 機構」の特性により、室温が高いときには鍵盤蓋の閉まる速さがやや速く、室温が低いときにはやや遅くなる傾向があります。



禁止

レバー式の「ソフトランディング機構」で遊んだり、無理に力を加えたりしない

一部の機種では、鍵盤蓋の左側にレバー式の「ソフトランディング機構」が設置されています。

レバー式の「ソフトランディング機構」で遊んだり、無理に力を加えたりすると、機構が破損しけがをするおそれがあります。

手の挟み込み
に注意

鍵盤蓋を閉じる際、鍵盤蓋奥の隙間に手指をはさまないように注意する

一部の機種では、鍵盤蓋を開いたとき、奥に隙間が生じます。鍵盤蓋を閉じる際、この隙間に手指をはさんでけがをするおそれがあります。



注意

ほかの人が周囲にいる場合は、ほかの人が鍵盤蓋に触れないように注意する

鍵盤蓋が倒れ、手指をはさんでけがをするおそれがあります。

椅子



必ず実行

椅子を移動するときは注意して行う

転倒してけがをするおそれがあります。



必ず実行

高さ調整は椅子から降りて行う

上下する部分が急に動いて手をはさむなど、けがをするおそれがあります。



禁止

椅子の可動部のすきまに手を入れない

手をはさんでけがをすることがあります。

2.使用上のご注意

「故障、損傷などの発生が想定される」内容です。ピアノをよりよい状態でお使いいただくために、以下の内容をよく読んでお使いください。

設置するときの注意

ピアノに適した環境とは

ピアノは多くの天然材から作られているため、なるべく安定した環境のもとでお使いいただくのが理想です。
夏季は温度 20 ～ 30℃、湿度 40 ～ 70%、冬季は温度 10 ～ 20℃、湿度 35 ～ 65% を目安に設置環境を管理いただき、ご使用ください。

■長時間、直射日光のあたるところに置かないでください

塗装面の変色、変質または部品の反り、割れなどの原因になります。

■ほこりや湿気の多いところに置かないでください

- ・鍵盤の動きが悪くなる原因になります。
- ・ハンマーが湿気を吸って、音に悪影響が出る場合があります。
- ・弦などの金属部品にサビが生じやすくなります。

■極端な温度・湿度変化の起こるところには置かないでください

- ・結露により金属部品にサビが生じやすくなります。
- ・各部の変化で調律が狂いやすくなります。
- ・塗装面の劣化、部品の反り、割れの原因になります。

■過乾燥なところ（暖房が直接当たるような場合）に置かないでください

- ・部品を組み立てているネジが緩み、雑音の原因になります。
- ・塗装面の劣化、部品の反り、割れの原因になります。
- ・弦を保持している部分が緩み、調律が狂いやすくなります。
- ・木材やフェルトが収縮し、各部品の正常な動きを妨げます。

■アップライトピアノは、壁から離して設置してください

アップライトピアノは、壁から 10 ～ 15 cm 離すのが適当です。通気性をよくするとともに、音が通るようになります。

■床を傷つけたり、汚したりしないように注意してください

ピアノを直接、床に設置するとキャスターで床を傷つけたり、汚したりすることがあります。キャスターを受ける器具として別売の「インシュレーター」（アップライトピアノ用、グランドピアノ用）、「敷板」（アップライトピアノ用）のご利用をおすすめします。

取り扱いに関する注意

■殺虫剤やマニキュア、香水など揮発性のあるものをピアノの上に置かないでください

塗装面の変色・変質の原因になります。

例：家庭用塗料、接着剤、ベンジン、殺虫剤、油性ペン、香水、マニキュア、整髪料、ヘアスプレー、ウイスキー など

■塗装面にゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください

塗装面の変色・変質の原因になります。

例：ピアノ椅子（塩ビレザー張り）、塩化ビニール加工をした表紙の本、電気コード、プラスチック製の消しゴム、プラスチック製のおもちゃ、ビニール製品全般 など

■鍵盤をアルコール・ベンジンや各種洗剤などで拭かないでください

鍵盤の変質、ヒビ割れの原因になります。お手入れについては 17 ページをご覧ください。

■ピアノの上に水の入った容器（花びん・鉢など）を置かないでください

水はピアノの大敵です。万一こぼすとピアノの機能を損なうことがあります。

■内部の部品に触れたり、内部を改造したりしないでください

ピアノの内部には、調整の必要な部品が多くあります。その部品が破損したり、機能を損なったりすることがあります。

■ピアノの中や鍵盤の隙間にもものを落とさないように注意してください

鍵盤が動かなくなったり、雑音の原因になったりします。

例：クリップ、硬貨、ボタン、ヘアピン、鉛筆、消しゴム、小さなおもちゃ類 など

■ピアノを弾くときは手を清潔に、爪は短く切るよう心がけてください

汚れた手で弾くと鍵盤を汚すことになります。また、爪が長いと鍵盤の表面が傷つき、汚れが付着しやすくなります。

■使用後は乾いたやわらかい布で鍵盤を拭いてください

日頃のお手入れにより、ピアノの美しさや性能を保つことができます。お手入れについては 17 ページをご覧ください。

音への思いやり

私たちは、さまざまな音に囲まれて生活しています。それらの音の聞こえ方は周りの環境や聞く人の状態によって大きく左右されます。周囲への音の伝わり方を理解することは、美しいピアノの音色をお楽しみいただくための第一歩です。

下記ウェブサイトには、ピアノの音の伝わり方、エチケツなどの情報が書かれています。ぜひご覧ください。

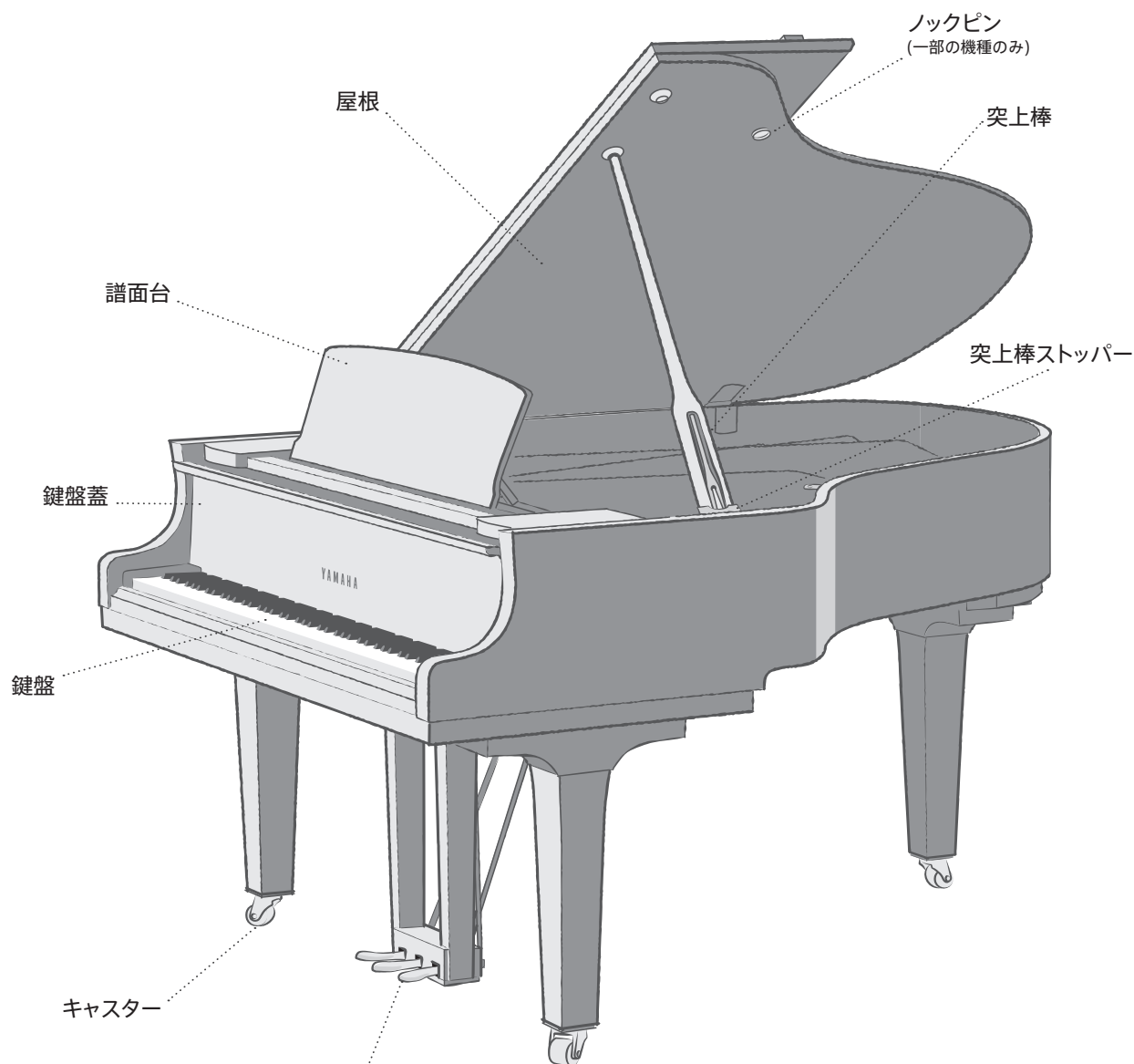
音のマニュアル



<https://manual.yamaha.com/mi/rt/piano/soundproofing/>

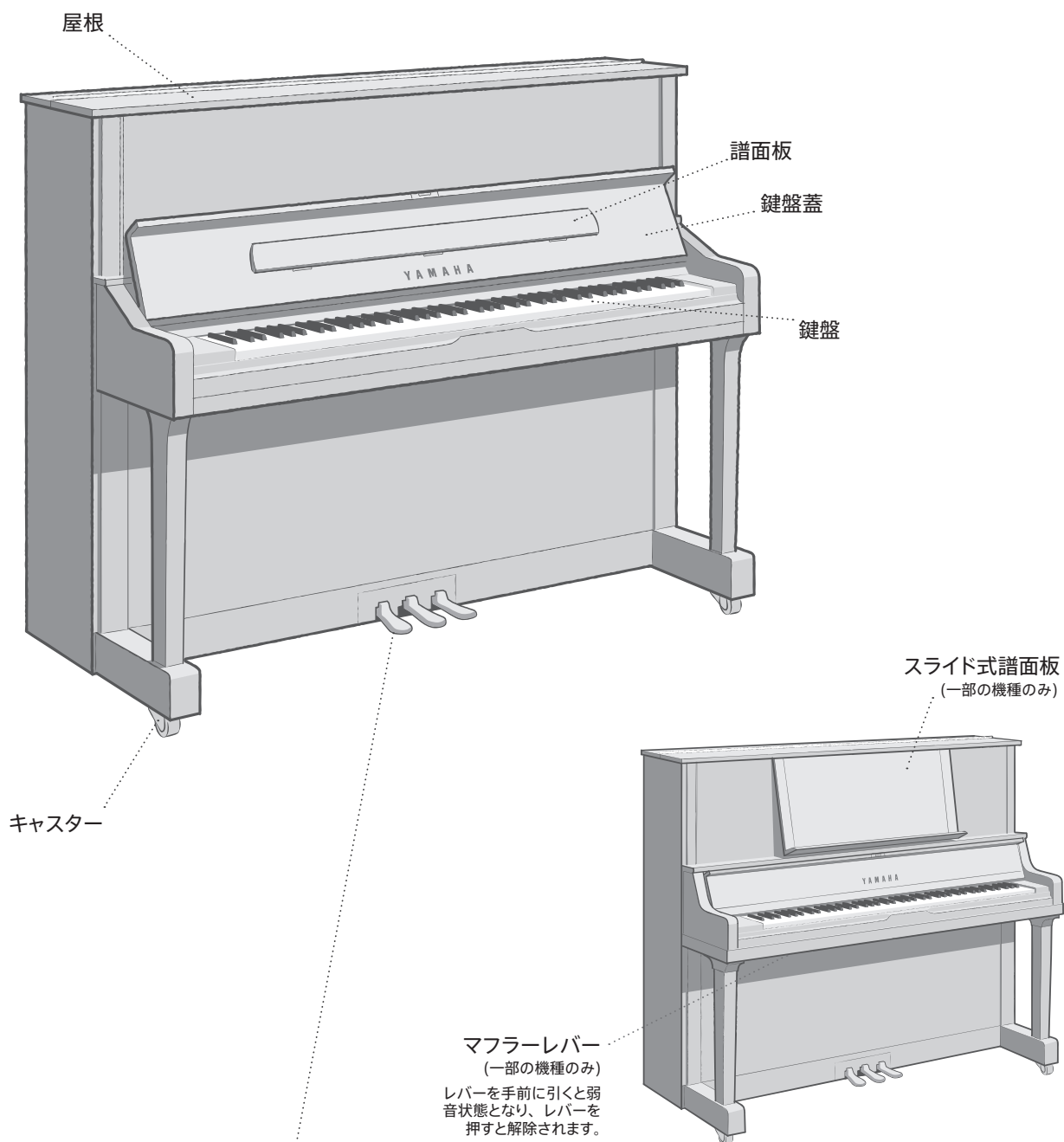
3.各部の名称

グランドピアノ



ペダル		
左	ソフトペダル (シフトペダル)	ペダルを踏みこむと、鍵盤および弦を打つハンマーの位置が少し横に移動し、音色や音量を変化させることができます。
中央	ソステヌートペダル	鍵盤を押した状態でペダルを踏み込むと、その弦の止音機構（ダンパー機構）が解除され、その音だけを止めずに響かせておくことができます。
右	ダンパーペダル	ペダルを踏み込んでいる間、弦の止音機構（ダンパー機構）が一斉に解除され、鍵盤から指を離しても弦の振動を止めずに音を響かせることができます。

アップライトピアノ



ペダル		
左	ソフトペダル	ペダルを踏みこむと、弦を打つハンマーの位置が弦に近づき、音量を変化させることができます。
中央	マフラーペダル	ペダルを踏みながら左にスライドすると、薄いフェルトが弦とハンマーの間に入り、弱音状態で演奏ができます。元に戻すには、ペダルを踏みながら右にスライドさせます。 ※ ソステヌートペダルの機種もあります（グランドピアノのペダル参照）。
右	ダンパーペダル	ペダルを踏み込んでいる間、弦の止音機構（ダンパー機構）が一斉に解除され、鍵盤から指を離しても弦の振動を止めずに音を響かせることができます。

4. ご使用前の準備

グランドピアノの屋根を開ける / 閉める

⚠警告

- 屋根を開閉するときは、必ず大人が行ってください。また、ご自分や周りの方、特にお子様などが手や指をはさまないようにご注意ください。
- 楽器を移動するときは、必ず屋根を閉めてください。

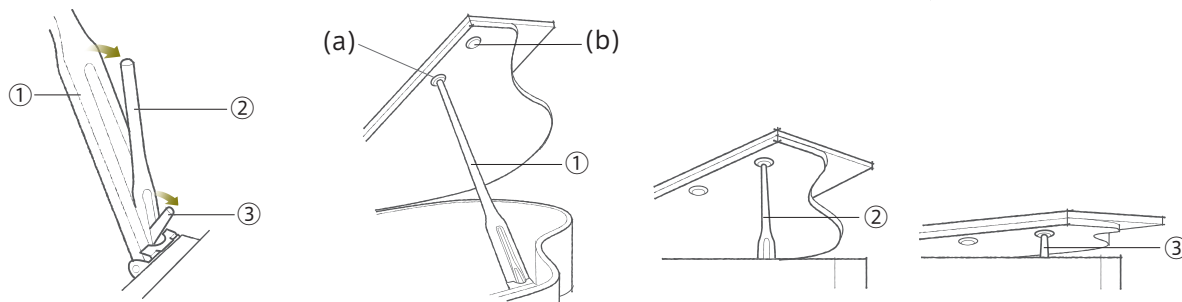
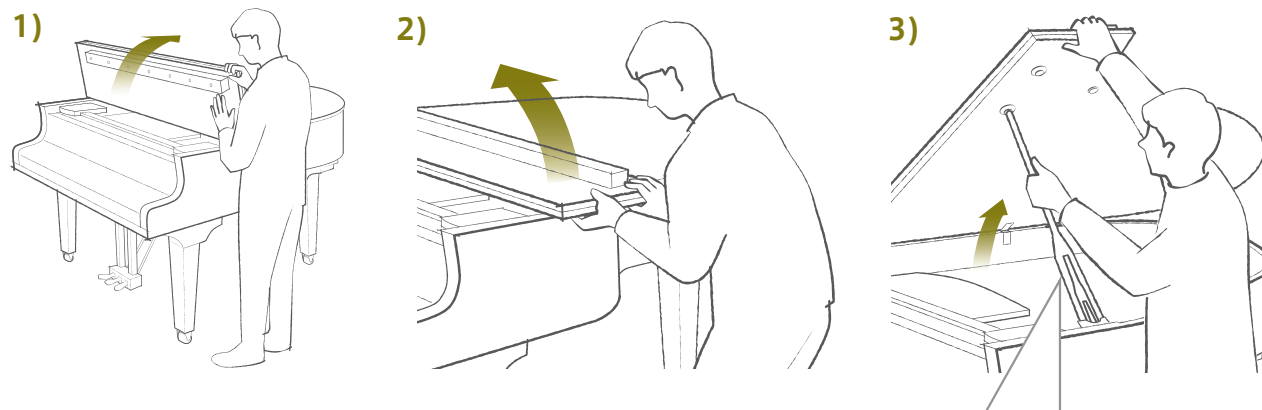
グランドピアノは、屋根の開き具合で音の響き方を調節できます。屋根を開けると、音がより豊かに響きます。使用用途に合わせて開き方をお選びください。

■前の屋根だけを開ける

- 1) 屋根の右側手前（高音側）を両手で持ち上げ、後方に折り返して、後ろの屋根の上に重ねます。

■前と後ろの屋根を開ける

- 2) 手順 1 で、前の屋根を開けたあと、屋根を 2 枚重ねた状態で、右側手前（高音側）を両手で持ち上げます。
- 3) 持ち上げた屋根を片手で支え、もう片方の手で突上棒を持ち、突上棒の先端を屋根裏面の受皿に入れます。



長い突上棒（①）は内側の受皿 (a) に、短い突上棒（②、③）は外側の受皿 (b) に入れます。
突上棒が、それぞれの正しい受皿の中央に、しっかり入っていることを確認してください。

⚠警告：突上棒は、正しい受皿に、また確実に受皿の中央に入れてください。間違った受皿を使ったり、突上棒の先端が受皿から外れていたりすると、突上棒の支えが不安定となり、屋根が落下してけがをするおそれがあります。

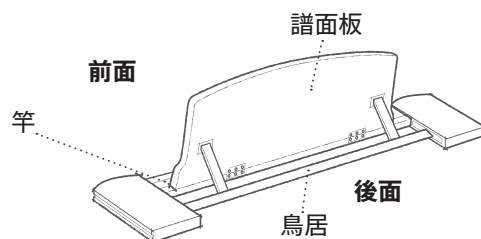
⚠注意：突上棒の付け根には、突上棒を起こしすぎないようにストッパーがついています。突上棒を起こしすぎると、突上棒に傷がついたり、突上棒ストッパーが変型したりしますのでご注意ください。

■屋根を閉める

屋根を閉めるときは、手や指をはさまないように注意しながら、開けるときとの逆の手順で行ってください。

グランドピアノの譜面台を使う

■譜面台の名称



■譜面板を立てる

譜面台を操作するときは、鍵盤蓋を閉めた状態で行ってください。
一部の機種では、譜面台の前後の調整（手順 2、4）はできません。

- 1) 前の屋根だけ、もしくは前と後ろ両方の屋根を開けます。屋根の開け方は 12 ページをご覧ください。
- 2) 両手で竿を持って、譜面板が完全に屋根の下側から出るまで手前側へ引き寄せます。
- 3) 譜面板の奥側または横側を持って、譜面板を立てます。
譜面板の角度は、5 段階で調節できます。
- 4) 両手で竿を持って、譜面台の位置を調節します。
前に引き寄せた譜面台を、ストッパーで止まるところまで押し込みます。この位置が通常のご使用位置です。
譜面台の位置を手前にしたい場合は、引き出しすぎないようにご注意ください。引き出しすぎると譜面台が傾いたり、外れて落下したりすることがあります。

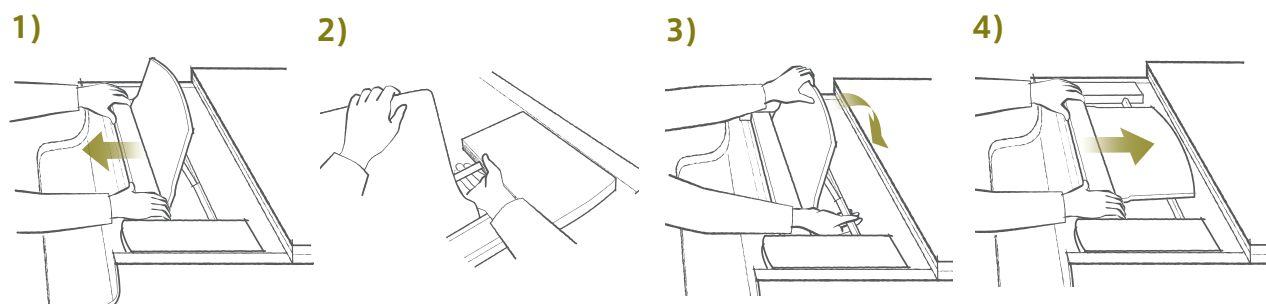


⚠注意：竿を持って譜面台の位置を調節するときは、親指を竿の下側に入れないでください。手指をはさんでけがをす
るおそれがあります。

■譜面板をしまう

一部の機種では、譜面台の前後の調整（手順 1、4）はできません。

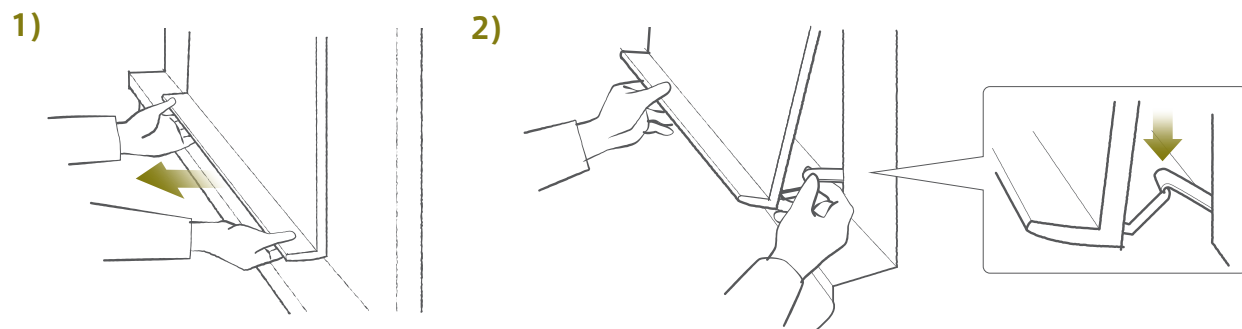
- 1) 両手で竿を持って、譜面台を手前に引き寄せます。
手前に引き寄せずに譜面板を倒すと、屋根とぶつかる場合があります。
- 2) 片手で譜面板を持ち、もう一方の手で鳥居を軽く持ち上げます。持ち上げると鳥居の両端が溝から外れます。
- 3) 鳥居を持ち上げたまま、譜面板を完全に倒します。
- 4) 竿を押して、譜面台が止まるまで奥側へ押し込みます。
途中で止めると、屋根を閉める際に、屋根とぶつかることがあります。しっかり奥まで押し込んでください。



アップライトピアノのスライド式譜面板を使う（一部の機種のみ）

■譜面板を開ける

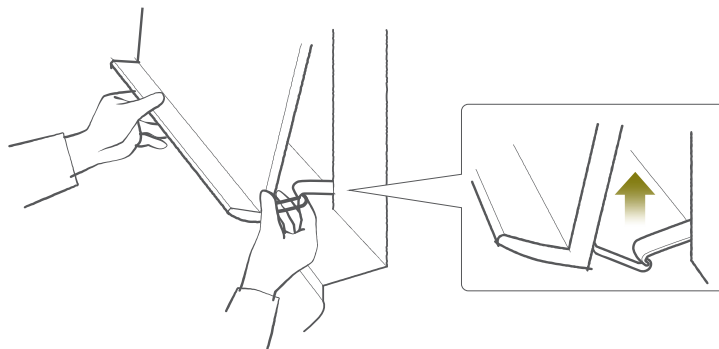
- 1) 両手で譜面板の先端を持って、手前へ引き出します。
- 2) 片方の手を離して、譜面板の横側の金具を押さえてロックします。
譜面板を起こすことで譜面が置きやすくなり、またトーンエスケープ効果で音が前方によりよく出るようになります。



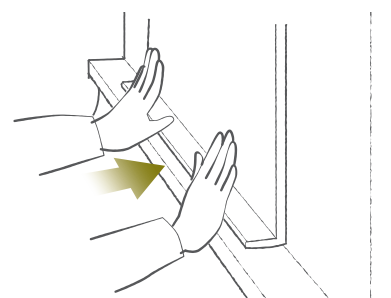
■譜面板をしまう

- 1) 左手で譜面板の先端を持ったまま、右手で金具を引き上げて譜面板のロックをはずします。
- 2) 譜面板の先端を両手で持って、カチッと音がするまで押し込みます。

1)



2)



△注意：スライド式譜面板の開閉時、手指をはさまないように注意してください。

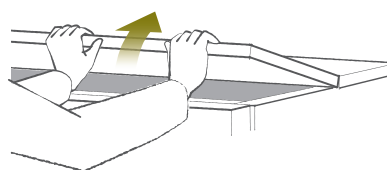
アップライトピアノのトップサポートを使う（一部の機種のみ）

トップサポートを使って屋根を開けると、音抜けがさらに自然になります。

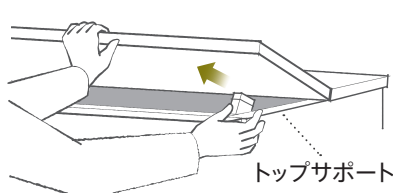
- 1) 両手で屋根の先端を持って、少し上に開きます。
- 2) 持ち上げた屋根を左手で支えたまま、右手でトップサポートを持ち上げます。
- 3) 両手で静かに屋根を下ろします。

屋根を閉める手順は、開けるときと同じです。手順 2 でトップサポートを下ろしてください。

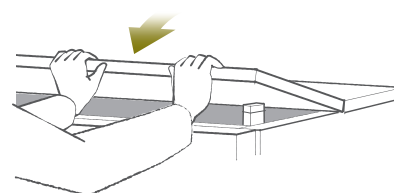
1)



2)



3)



△注意：屋根の開閉時、手指をはさまないように注意してください。

ピアノ椅子を使う

ピアノ椅子は、使う方にとって最適な高さに調節してからご利用ください。
椅子の高さにより弾きやすさや疲れ方が違ってきます。
ピアノに付属している専用椅子以外は、椅子に付属している取扱説明書をご覧ください。

5. 調律について

ピアノをより良い状態でお使いいただくために、ピアノ調律技術者による定期的な点検調整をおすすめします。

ピアノには調律が必要です

ピアノは弦楽器の仲間で、ほかの弦楽器と同様にチューニング（調律）が必要です。

ピアノの場合、ほかの弦楽器と比べるとはるかに強い力で弦が張られています（弦 1 本に 90 kg、全体でおよそ 20 t の張力）。このためチューニングは、ギターなどと異なりピアノ調律技術者（調律師）と呼ばれる専門技術者が行います。また、調律のほかにも、快いタッチを得るためのアクションやペダルの調整、美しい音を生むハンマーの調整が大切です。これらの総合的なピアノの調律・調整を定期的に行い、使用による消耗や、温度・湿度の影響による変化を正しく整え直すことは、ピアノを良い状態で長年ご使用いただくためには欠かすことができません。

納入点検調整について

ピアノを納入後まもなくお買い上げのヤマハ特約楽器店よりピアノ調律技術者が訪問し、以下の作業を行います。

- ピアノの機能点検
- ピアノの調律・調整
- ピアノのメンテナンス（保守・管理）とアフターサービスについてのご案内

定期調律のおすすめ

1 年に 1 ～ 2 回の定期的な調律・調整の実施をおすすめします。

ヤマハ特約楽器店では定期調律・調整（有料）を承っております。

納入点検調整の際にお申し込みください。

転居などにより、お買い上げ店にご依頼になれない場合には、お近くのヤマハ特約楽器店をご紹介します。

下記ウェブサイトにてお近くの店舗をお探しいただくか、お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口（20 ページ）にお問い合わせください。

店舗検索



<https://jp.yamaha.com/find/dealers/>

6.お手入れについて

塗装面・鍵盤ともに経年使用により、消耗・劣化が生じますが、日ごろのお手入れによって良好な状態をより長く保つことができます。

日頃のお手入れ、心がけ

- ・ピアノを弾くときは手を清潔に、爪は短く切りましょう。爪が長いと鍵盤の表面が傷つき、汚れが付着しやすくなります。
- ・ピアノを弾いたあとは、乾いたやわらかい布で鍵盤を拭いてください。

塗装面のお手入れ

表面にほこりが目立つとき	柔らかい布（付属品など）で軽く拭きとってください。 小さな砂ほこりでも、強く拭くと細かなスリ傷がついてしまうことがありますのでご注意ください。
表面に汚れが目立つとき	水をしみこませて固くしぼった柔らかい布で汚れを拭きとったあと、乾いた布で拭きます。 市販の各種洗剤や外装手入れ剤は、塗装面の変質・ひび割れなどの原因になりますので使用しないでください。また、化学雑巾は使わないでください。
表面の艶がなくなってきたとき	専用の外装手入れ剤を含ませた布でムラなく拭きあげてください。 ヤマハでは、それぞれの塗装に適した外装手入れ剤をご用意しています。 ・鏡面艶出し塗装（黒 / 生地）..... ピアノユニコン（別売） ・ナチュラル半艶仕上げ塗装 ピアノユニコン半艶ローション（別売） ・艶消し仕上げ塗装（特注） ピアノユニコン半艶ローション（別売） ・半艶塗装 ピアノユニコン半艶ローション（別売）

鍵盤のお手入れ

白鍵・黒鍵の汚れが目立つとき	水をしみこませて固くしぼった柔らかい布で汚れを拭きとったあと、乾いた布で拭きます。 外装の塗装面を拭いた布には、ユニコンなどが付着していますので、鍵盤のお手入れには使用しないでください。 市販の各種洗剤やアルコール・ベンジンなどは、鍵盤表面のひび割れの原因になりますので使用しないでください。
白鍵の汚れが特にひどいとき	ピアノキークリーナー（別売）の使用をおすすめします。その際、黒鍵につかないようにご注意ください。 使用後は、キークリーナーが鍵盤に残らないよう、乾いた布で拭き取ってください。 ご使用いただける白鍵上面の素材は「アクリペット」「アイボライト」です。 なお、キークリーナーが使用できない鍵盤（象牙、ニューアイボリー）もあるため、事前に調律技術者の方やお近くのヤマハ特約楽器店、もしくはヤマハピアノご相談窓口（20 ページ）へご確認ください。
白鍵にコーヒー・お茶などの飲み物やマニキュア・口紅などが付着したとき	水をしみこませて固くしぼった柔らかい布ですぐに拭きとってください。白鍵上面の素材が「アクリペット」「アイボライト」の場合は、その後ピアノキークリーナー（別売）をお使いください。

※ヤマハでは各種お手入れ用品をご用意しております。お買い上げのヤマハ特約楽器店にお問い合わせください。また、ご使用になる際は、それぞれの取扱説明書に従ってください。

7. 困ったな / 故障かな?と思ったら

ピアノの状態がおかしい・故障かな?というときは、以下の点をチェックしてください。サービス対応が必要なときは、お買い上げのヤマハ特約楽器店にご連絡ください。

症状	考えられる原因	チェック・対応
特定の鍵盤の音が出ない。	湿度の影響などで、アクションの動きの回転軸の役割をするフレンジという部品の動き具合がなくなったためです。	ピアノ調律技術者にご依頼ください。 フレンジの回転の動き具合を調整します。
	部品が破損しています。	ピアノ調律技術者にご依頼ください。 破損部品を交換します。
高音の途中から最高音にかけて、鍵盤から指を離しても音が止まらない。	正常な状態です。ピアノの最高音部の約2オクターブの音域は音の減衰が速く、音を止める装置（ダンパー）が取り付けられていないためです。	—
鍵盤から指を離しても、特定の鍵盤の音が止まらない。	音を止める装置（ダンパー）のフェルトと弦の密着状態に不具合が生じたためです。	ピアノ調律技術者にご依頼ください。 ダンパー調整で止音状態を改善します。
全体に音がこもって、ぼやけた音がする。音量も極端に小さい。	マフラー（弱音装置）が掛かっています。	通常のアップライトピアノの場合は中央のペダルを操作して、マフラーを解除してください。 ペダルの操作方法は11ページの『ペダル』をご覧ください。
特定の鍵盤を弾くと雑音（ビーン、ジーン）が混じる。	共鳴という現象が発生したためです。共鳴は、ピアノの内部で起こることもありますが、ピアノの音が外部の響きやすいものに共鳴している場合があります。共鳴の起きやすい品物には、メトロノーム・人形ケース・照明器具の傘・カバー・ピアノ周辺の壁などがあります。	共鳴の発生源を特定するため、雑音が出る鍵盤を叩きながら、ピアノの周囲にある共鳴の起きやすい品物を移動させたり、手で押さえたりしてください。 発生源が不明な場合は、ピアノ調律技術者にご依頼ください。
鍵盤が戻りづらい。	湿度の影響により鍵盤・アクションの調整箇所であるフェルトや木部が微妙に変化し、各部の動きがなくなったためです。	ピアノ調律技術者にご依頼ください。 フェルトや木部の摩擦具合を調整します。
	鍵盤の隙間に異物がはさまっています。この場合は2つの鍵盤の動きに影響しています。	2つの鍵盤の隙間に厚紙などを差し込んで、異物を下に落としてください。 改善した場合は、次の調律時にピアノ調律技術者に点検をご依頼ください。改善しない場合は、すぐに点検をご依頼ください。
艶出し塗装の艶がなくなった。	ほこりや汚れがついている、または艶出し剤がとれています。	艶出し塗装の表面は、艶出し剤（ヤマハユニコン）で艶を出しています。17ページ「塗装面のお手入れ」の要領でお手入れしてください。
塗装面に傷がある。	ほこりが塗装面に付いたままこすったためです。	お買い上げのヤマハ特約楽器店にご連絡ください。専門の塗装技術者が部分的に塗装し直す、もしくは部品を交換します。
		鏡面艶出し塗装の軽微なすり傷は、艶出し剤（ヤマハユニコン）で目立たなくなり、傷の予防にもなります。 お手入れ方法については、塗装仕様をご確認の上、17ページ「塗装面のお手入れ」の要領でお手入れしてください。

- ・症状が同じでも原因・処置が異なる場合があります。ご不明な点、お気づきの点は、お買い上げのヤマハ特約楽器店へお問い合わせください。
- ・自動演奏装置、消音装置については、それぞれに付属の「取扱説明書」をご覧ください。

8.保証とアフターサービス

お買い上げいただいたピアノを末永くご愛用いただくために、ヤマハは YCS（ヤマハ・コンサルティング・サービス）と呼ばれる総合的なアフターサービスのシステムを整え、以下のようなサービスをご提供しています。お買い上げのヤマハ特約楽器店にお気軽にお申し付けください。

- ピアノに欠かせない調律・調整などのメンテナンス
- レッスン・楽譜・テキスト・お手入れ用品・防音についてのご相談
- ピアノの修理・移動、不要となった場合のご相談
- コンサート情報などの音楽情報のコミュニケーションサービス

保証書について

- ヤマハピアノにはブックレットの中に保証書が入っています。保証書は必ず「販売店名・お買い上げ日」などが記入されていることをお確かめの上、販売店よりお受け取りください。保証書に販売店名、お買い上げ日などの記載がないと、保証期間中でも万一サービスの必要がある場合に有料となることがありますので、十分にご注意ください。
- 保証書はよくお読みの上、大切に保管してください。
- ピアノ内部の改造などにより機能が損なわれた場合、保証期間中でもサービスの必要がある場合に有料となることがあります。また、機能が回復できない場合もありますのでご注意ください。

修理について

■修理を依頼されるときに、ご連絡いただきたい内容

お名前	
ご住所	目印など
電話番号	連絡にご都合の良い時間帯および悪い時間帯
製品名・品番・お買い上げ日	例：アップライト・品番〇〇・〇年〇月〇日
故障内容	できるだけ詳しく
訪問ご希望日	ご都合の悪い日も併せて

※製品名・品番・お買い上げ日などにつきましては、お手元の保証書をご覧ください。

■保証期間中の修理

お買い上げのヤマハ特約楽器店へご依頼ください。保証書の規定に従って修理いたします。

お買い上げ店にご依頼になれない場合には、お近くのヤマハ特約楽器店をご紹介します。下記ウェブサイトにてお近くの店舗をお探しいただくか、お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口（20 ページ）にお問い合わせください。

店舗検索



<https://jp.yamaha.com/find/dealers/>

■保証期間経過後の修理

お買い上げのヤマハ特約楽器店にご相談ください。修理によって機能が維持・回復できる場合は、ご希望により有料で修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期間

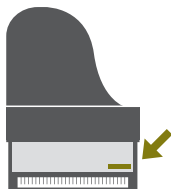
製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造終了後 8 年です。

ピアノの製造番号について

製造番号は品質を管理する上で重要です。お買い上げの際は製品本体と保証書の製造番号が一致していることをお確かめください。

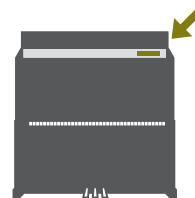
■グランドピアノ

鍵盤側の手前の屋根を開けて中をご覧ください。高音部側のフレーム（金属部分）右側に品番と製造番号が記載されています。（例：C3 1234567）



■アップライトピアノ

屋根（一番上の板）を開けて中をご覧ください。フレーム（金属部分）右側上部に品番と製造番号が記載されています。（例：U3 1234567）



ピアノの製造時期について

ピアノの製造時期は、商標名、機種名及び製造番号をお調べの上、お買い上げのヤマハ特約楽器店にお問い合わせください。

ピアノの調律についてのお問い合わせ

お買い上げのヤマハ特約楽器店へお問い合わせください（16 ページ参照）。

ピアノの機能や取り扱いについてのお問い合わせ

お近くのヤマハ特約楽器店、または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター ピアノご相談窓口 (For customers in Japan only)

フリーダイヤル  **0120-137-808**

携帯電話、
IP電話からは **050-3852-4080**

ヤマハ サポート・お問い合わせ
<https://jp.yamaha.com/support/>

受付 月曜日～金曜日 10:00 ～ 17:00（祝日、センター指定の休日を除く）



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート
LINE 公式アカウント

※名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります。

YAMAHA CORPORATION

10-1 Nakazawa-cho, Chuo-ku, Hamamatsu, 430-8650 Japan

ヤマハ株式会社

〒 430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町 10-1



YN216A0

© 2025 Yamaha Corporation

Published 11/2025

2025 年 11 月発行 TEKKHY-A0

カタログコード PPT007